

いっぱい考え なんでも本気 いつでもチャレンジ 稲井つ子



着地点

籠峰山

元気のよいあいさつがかわされ、笑顔とキラキラ言葉にあふれる学校

学校HP <http://www.city.ishinomaki.lg.jp/school/20301900/index.html>

学校だより

石巻市立稲井小学校
校長 高砂 宏之
(文責 教頭 石川 裕一)

令和5年5月2日(火)
No.2

「日本人で初めて世界一周した人」

校長 高砂 宏之

たくましく生きた人の話として、4月19日の朝会で「日本人で初めて世界一周した人」の話をしました。

「初めて世界一周した人は誰でしょうか？①コロンブス、②マゼラン、③バスコ・ダ・ガマ ④ルフィー」

正解は、②のマゼランです（正確にはマゼランは、途中で亡くなっているのですが、マゼランの仲間ということになります）。

「ではみなさん、日本人で初めて世界一周した人は誰ですか？①支倉常長、②伊達政宗 ③その他」

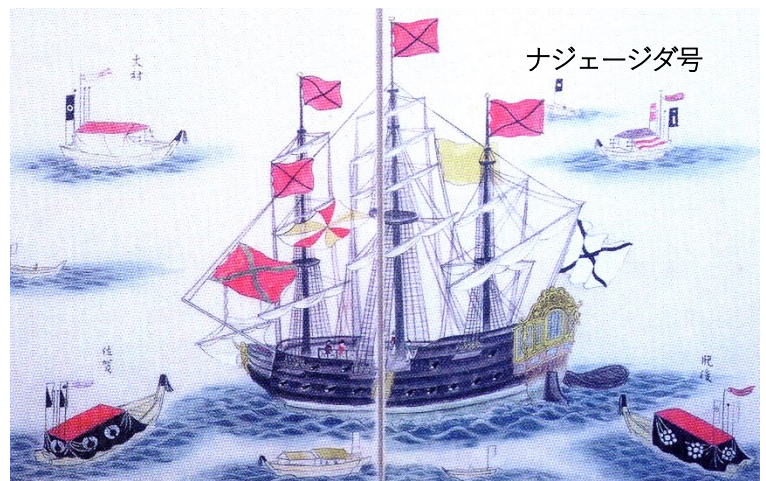
1番の支倉常長は、メキシコを通り、スペインやイタリアに行きましたが、一周していません。2番の伊達政宗は豊臣秀吉の命令で朝鮮半島には出兵していますが、外国に行ったのはそれだけです。日本人で初めて世界一周した人は3番のその他 石巻の若宮丸の人なのです。

今から230年前の江戸時代。西暦でいうと1793年のことです。この時石巻は大変栄えていました。北上川や江合川の舟運を利用し、現在の宮城県北や岩手県南部の米の一大集積地となっていました。ひらた舟に米を乗せ川を下り、石巻でたくさん積める千石船に積み替え、一大消費地である江戸に運んでいました。石巻にはたくさんの千石船がありました。その中の一つに若宮丸（わかみやまる）という船がありました。1793年11月27日に石巻を出帆しました。

積み荷は米1332俵、材木400本、乗組員16人でした。出帆してから約1週間後の12月3日、塩屋崎（いわき市）沖で暴風雨にあい遭難しました。現代でいうところの爆弾低気圧とみられます。舵が壊れ、続いて転覆回避のため、帆柱を切り倒します。こうなると、あとは神頼みの漂流です。北へ北へと流されます。幸いなことに積み荷は米だったので、食料は何とかなりました。半年以上流され続け1794年5月10日にアリューシャン列島（ロシア帝国が実効支配していた）の小島に漂着します。小島の住人に報告を受けたロシア人によって、若宮丸の乗組員は、ペトロバブロフスク→オホーツク→イルクーツクと送り届けられます。イルクーツクには、日本の伊勢や南部藩出身の漂流民も住んでいました。つまり、江戸時代に漂流事故というのは結構あったようです。漂流民16人のうちアリューシャン列島の小島で1人、イルクーツクで2人が亡くなりました。イルクーツクには7年間滞在しました。その間ロシア正教の洗礼を受けロシア人になった人もいました。漂流民の運命が大きく動くのは、アレクサンドル一世がロシア皇帝に即位してからです。その時からロシアは日本との貿易や交流を本格的に進めることを決めたのです。1803年3月、イルクーツクにいた漂流民13人は皇帝と会うため首都ペテルブルクに呼び出されます。イルクーツクからペテルブルクまで約7000km。日本の北海道から沖縄往復よりも距離があります。その距離を4頭の馬が引くそりで移動します。一日120kmから130km進みます。昼も夜も休みなく。食事もしりの中ですり。唯一止まるのはトイレの時のみ。イルクーツクからペテルブルクまで50日かかりました。その間そりではなく宿に泊まったのはモスクワの1日だけだったそうです。「馬が死んじゃうんじゃないか？」すごく自然な疑問です。この当時ロシアは60kmごとに馬を交換できる駅のようなものを整備していたようです。日本でも江戸時代に飛脚がいたのと同じように。この旅の途中で、3人が車酔い（正確にはそり酔い）で途中脱落したようです。最終的にペテルブルクに到着した漂流民は10人でした。10人はロシア皇帝から、このままロシアに残るか、日本に帰りたいか希望を聞かれました。津太夫（つだゆう）儀兵衛（ぎへえ）、太十郎（たじゅうろう）、左平（さへい）の4人は日本に帰国することを希望し、他の6人は生きて日本に帰れるか不安だし、日本に着いても受け入れられるか心配なので、ロシアに残ることにしました。その後4人はペテルブルクで、プラネタリウムのようなものを見せてもらったり、熱気球を飛ばすのを見せてもらったり、音楽に合わせた踊り（多分バレエのようなもの）を見せてもらいました。そして、ロシアが準備



若宮丸模型



ナジェージダ号

していた船ナジェージダ（希望）号に乗せてもらい、ペテルブルグ近くのクロンシュタット港を出港しました。途中コペンハーゲン（デンマーク）、ファルマス（イギリス）、サンタ・カタリナ島（ブラジル）、ヌクヴィア島（南太平洋・マルキーズ諸島）、サンドイッチ諸島（ハワイ）などの港に寄り、約1年かけてカムチャッカ半島のペトロパブロフスク港に到着しました。途中の北海の海上では、フランスの船と間違えられ、イギリスの船から砲撃されました（この当時イギリスとフランスは戦争していた）。南アメリカの一番南のホーン岬を回る時には猛烈な強風に襲われ、南極近くまで流されました。マルキーズ諸島では全身刺青の人たちと遭遇したりと、めったにできない体験をしながらの航海だったようです。

1804年9月6日、漂流民を乗せたナジェージダ号は長崎港に到着します。なぜ、江戸や仙台ではなく長崎だったのでしょうか？ それは鎖国をしていたからです。長崎に着いても、長崎の役人では漂流民を引き取るかどうか決められないので、江戸幕府の意向を確認するため半年も待たされました。その挙句に、ロシアとは一切貿易することは考えていないので、引き取ってほしいとの返事でした。なんということでしょう。それだけ江戸時代の日本はキリスト教が入ってくることを恐れていたようです。交渉の末、何とか漂流民だけは引き取ってもらえることになりましたが、すぐに石巻に送られたのではなく、江戸で2か月間仙台藩の大槻玄沢（おおつきげんたく）という医師（蘭学などを学んでいた）に、ロシアでの様子を詳しく聞き取り調査を受けました。大槻玄沢は漂流民に聞き取りしたことをもとに、環海異聞（かんかいいぶん）16巻にまとめました。この環海異聞は外国の情報に飢えていた江戸時代の人々に大変な関心を持たれ、たくさんの写本が作られました。仙台市博物館、宮城県図書館でも所蔵していますが、貴重な本らしく、実物を見せてもらいに行ったのですが、見せてもらえず、マイクロフィルムでしか見せてもらえませんでした。石巻文化センターでも、東日本大震災前に写本を購入したようですが（係の人に聞くと100万円以上らしいのですが）、今はどうなっているのかわかりません。もし、まだ残っているのであれば見てみたいものです。

漂流民は13年ぶりに故郷に戻ってきますが、太十郎は村に戻ってきて1か月後に、儀兵衛も戻ってきて半年足らずで亡くなっています。太十郎36歳、儀兵衛45歳の若さでした。長旅と心労でかなり体調を崩していたようです。津太夫は戻ってきて8年後の70歳まで生きました。左平は村に戻って23年後の67歳まで生存しました。この日本に帰ってきた4人が日本人で初めて世界一周した人たちになります。

早くロシアが、この時のように親切的な国に戻ることを願っています。



連休等での生活・遊びにご注意ください！

5月を迎え、稲井地区では田植えの時期でもあります。そのため、用水路や側溝がかなり増水しています。場所によっては、のり面が土のため崩れやすくなっているところがあって危険です。学校でも指導しておりますが、子供たちには、川や用水路・側溝には近づかないようにお声掛けをお願いいたします。交通事故の防止など、連休を含めて子供たちの生活・安全にご注意ください。

緊急の場合の連絡先 070-1306-4198

5月予定

1日(月) 第1回学校運営協議会

2日(火) PTA役員会18:30

3日(水) 憲法記念日

4日(木) みどりの日

5日(金) こどもの日

9日(火) 居住地確認予備日

10日(水) 委員会活動

11日(木) PTA親子奉仕作業18:00

PTA全体役員会19:00

12日(金) 運動会全体練習、係児童打合せ

13日(土) 稲井中学校運動会

15日(月) 代表委員会、集金袋配布

16日(火) 運動会全体練習、集金日①

17日(水) 音楽集会、運動会全体練習

集金日②

18日(木) 係児童打合せ

19日(金) 全校4時間授業、給食あり

会場準備

20日(土) 運動会(午前開催)

21日(日) 運動会予備日

23日(火) 弁当日

25日(木) 縦割り班活動

26日(金) 一斉下校、学校区パトロール

29日(月) 業間時避難訓練

花いっぱい運動

30日(火) 内科検診(1,3年)